

災害救助犬 活躍ぶり紹介

開校記念卒業生が講演

蘇南高

蘇南高校で、開校記念講演会がこのほど開かれた。同校OBの

西原幹夫さん

(66) 東京都

が「災害救助犬を飼うべきですか」と題して話し、

全校生徒約180人や地域

住民らの前で、訓練の様子や活躍ぶりを紹介した。

西原さんはボランティアで災害救助犬の訓練指導を

している。救助犬になる犬は100頭中3、4頭だとい

う。つとここで起きるか分からない



災害救助犬について学んだ開校記念講演会

らない災害に備えて「救命率が高いうちに活動できるよう、民間人が身近に救助犬を飼っていることが大事だ」と伝えた。

「倒壊家屋に閉じ込められた時のため、覚えていてほしい」として「叫び声は外部に聞こえにくい。人が近づいて来たら蹴ったり、たたいたりして音を出して」とも教えた。

生徒会長で3年生の中田柊斗君(17)は「救助犬の大切さが分かった。においの跡を

たどる警察犬と違い、人間のストレスに伴うにおいの変化をかき分けると知り、びっくりした」と話した。

(山本政吾)